

第7章

公共交通に関する事項

1 公共交通網の形成

(1) 公共交通網形成に向けた基本的な方針

「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の「ネットワーク」を担う移動手段として、路線バスを主要公共交通軸として位置付け、利便性の向上や利用促進を図ります。

特に拠点間を結ぶ幹線軸を継続的に維持・確保していくことを基本とした中で、平坦な地形である本市の特徴を活かし、自転車利用も含め、居住エリアと生活利便性施設等をつなぎ合わせる公共交通網の形成を目指します。

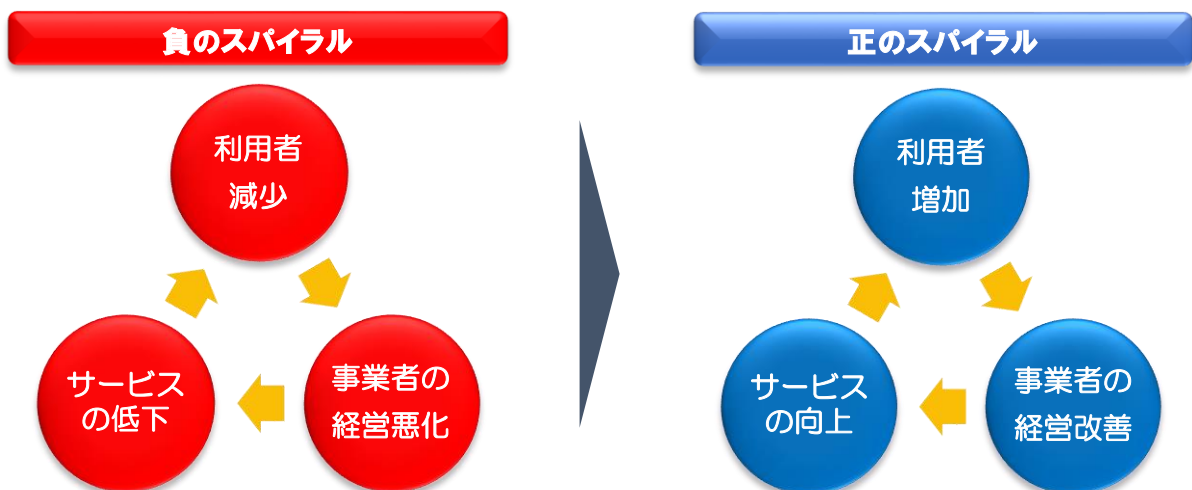
(2) 公共交通の基本的な考え方

- 市外の来訪者のアクセス手段としての役割を果たす広域バスおよび民間バス路線は、沿線住民の生活交通として重要な役割を果たしているため、継続的な維持・確保を図ります。
- 守山市の公共交通は、大部分は民間交通事業者による運行であるため、民間交通事業者と連携・支援をしていく中で、公共交通網を形成します。
- モビリティマネジメントを実施することで、過度な自動車依存から公共交通の転換を図ります。
- BTS（バス乗換自転車駐輪場）等を整備していく中で、サイクル&ライドによる利用促進を図ります。
- デマンド乗合タクシーを活用することで、路線バスを補完し、交通弱者や交通空白地の移動手段を確保します。

2 持続可能な公共交通の実現

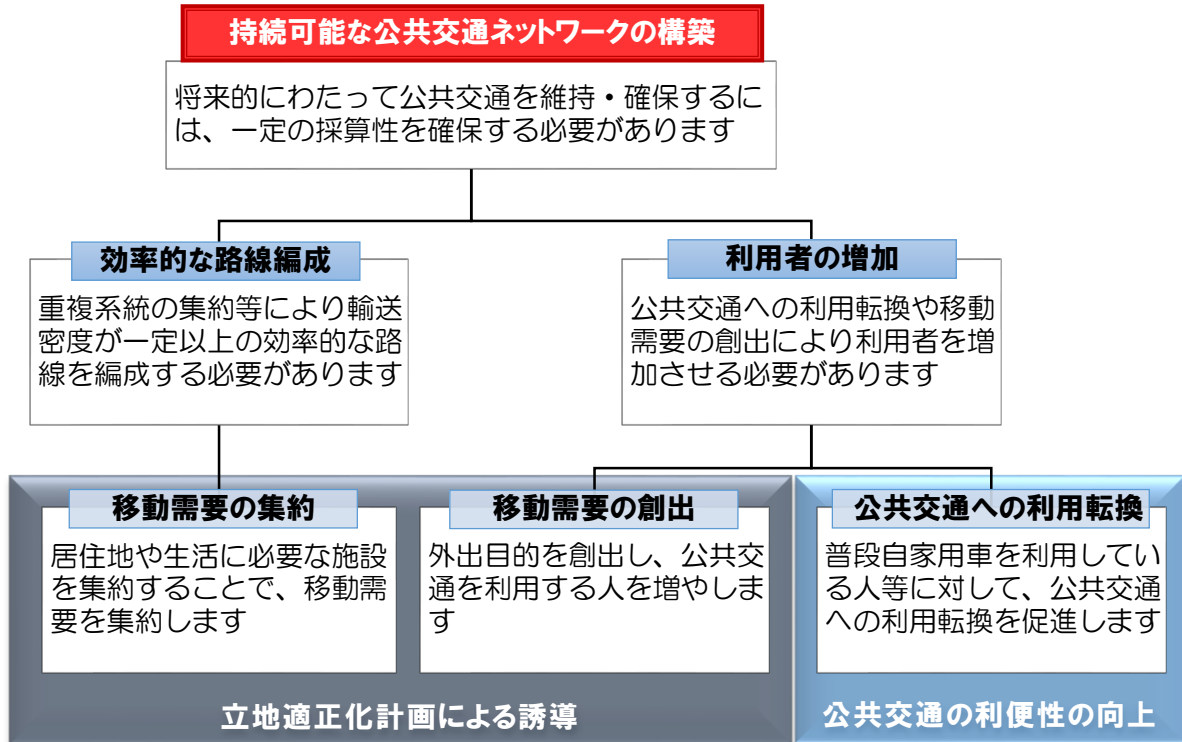
(1) 公共交通の維持・確保について

持続可能な公共交通を実現するには、利用者の減少により、経営の悪化、サービスの低下という負のスパイラルが発生しているため、利用者を増加させ、経営改善を図ることで、正のスパイラルに転換させる必要があります。



(2) 立地適正化計画による公共交通の維持・確保

立地適正化計画により、コンパクトシティ化の推進や各拠点の魅力を高める中で、公共交通を維持・確保ができる都市構造の形成を目指します。



【移動需要の集約】

停留所の増加や分散により、路線延長が長くなり、定時性が失われ、利便性が低くなるとともに、輸送密度も低くなり、採算性が確保できなくなります。

立地適正化計画により、居住地および生活に必要な施設を誘導することで、移動する人や移動する目的地を可能な限り集約して、効率的な路線編成を実現することで、採算性の確保を目指します。

【移動需要の創出】

普段外出しない人が外出をして、公共交通を利用することも、利用者を増加させるために必要なことから、外出したくなるようなまちづくりをすることも公共交通を活性化の上では重要なことです。

立地適正化計画により、各拠点に必要な施設を誘導し、魅力ある拠点を形成し、外出目的を創出することで、移動需要を創出し、公共交通の利用者の増加を目指します。

《基幹的公共交通路線の強化》

都市拠点、観光・レクリエーション拠点の魅力を高め、誰もが行きたくなるような拠点にすることで、南北の行き来を活性化し、南部市街化区域と北部市街化区域をつなぐ基幹的公共交通軸の利用者増加を目指します

